

ロジスティクス環境会議

第1回省資源ロジスティクス推進委員会 議事録(案)

. 日 時：2004年1月26日(月) 14:00～17:00

. 場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイビー

. 出席者：46名(別紙出席者一覧 参照)

. 議 案：

- 1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について
- 2) その他

. 開 会

定刻、徳田事務局長により、開会が宣された。

. 主催者挨拶

稲束専務理事より、会議の設立経緯ならびに設立趣旨と本会議の活動の中で、各メンバー間の合意形成のもとに、サプライチェーン、更にはリバースチェーンの最適化を支えるロジスティクスの概念、方向性、役割が明確となり、今後の社会、経済活動の中で有益な指針に繋がる提言や企業活動の中で役立つツール等が成果として作成されることを期待する。また、約3年の委員会活動で成果を出すためには、継続性のある議論を行うことが必要であり、委員会の出席メンバーは可能な限り同じ方々に参加いただきたい旨の挨拶が行われた。

. 委員紹介

山本委員長、魚住副委員長、軽部副委員長の挨拶に引続き、各委員より自己紹介がなされた。

. 設立後の経過報告について

- 1) ロジスティクス環境会議の概要について【資料1-1、資料1-2】

事務局より、資料1-1に基づき、ロジスティクス環境会議の設立経緯、資料1-2に基づき、ロジスティクス環境会議の概要と運営体制について説明が行われた後、確認がなされた。

- 2) ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について

【資料2-1、資料2-2、資料3】

事務局より、資料2-1に基づき、ロジスティクス環境会議設立(2003年11月13日)後の企画運営委員会の開催および第1回企画運営委員会の議論に基づき行われた、各委員会の正副委員長ミーティングの開催経過の報告が行われた。また、資料2-2に基づき、第1期(2003年11月～2006年3月)に議題(合意形成)としたい項目と内容(例示)について説明が行われ、各委員会ならびに全メンバーが環境会議全体としての方針、アウトプット(成果)、目標等について認識を共有したうえで、今後の具体的な活動を推進したい旨の説明が行われた。

引続き、事務局より、資料3に基づき、環境会議の全メンバーに対して行われた、問題抽出アンケートの結果の報告が行われた。

・議事の経過

1. 議 事

山本委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について【資料3】

山本委員長より、資料3に基づき、正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題と(合意形成)したい項目について説明がなされ、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

(1) 運営面に関すること

【委員】省資源ロジスティクスのあるべき姿を明確にしたうえで、具体的な活動に入った方が良いのではないかと。

【事務局】環境という切り口でロジスティクスを捉えるのは始まったばかりであり、ロジスティクスの視点から各物流プロセスのボトルネックを把握し、議論するための基盤をつくった後、あるべき姿を議論し、提示していきたい。

【委員】委員会活動の中で、事例紹介の時間も設けて欲しい。

【委員】アウトプットを作成するための作業は、委員が分担して行うのか。

【事務局】活動の基本的な方針やアンケート等の企画段階でご意見をいただいたくことはあっても、集計等の作業を委員の方をお願いすることは考えていない。

【委員】当委員会での活動が具体化するに従い、源流管理による環境改善委員会との棲み分けが難しくなるのではないかと。

【事務局】委員長の説明のとおり、現状の企画運営委員会の見解としては、「源流」は各企業の活動を主体とし、「省資源」については、企業間の活動を主体としているが、委員長の発言にあったとおり、環境会議全体として漏れが無い様にするのを重要視しており、必要があれば、都度、各委員会の委員長で構成される、委員長ミーティングの場で調整を図る予定である。

(2) 活動テーマ、内容に関すること

【委員】省資源ロジスティクスという広い範囲にわたって議論するにあたって、ロジスティクスの全体最適の切り口と輸送、包装という各物流機能の部分最適のバランスを考慮する必要があるのではないかと。例えば、全体最適の視点から、包装資材を軽減する動きの中で、モーダルシフト(ここでは海上輸送)を行うことによって、貨物を保護するために製品を保護するために包装に手間をかけるなどもある。

【委員】海外の事例収集を行うことも必要ではないかと。

【事務局】海外の事例収集については、企画運営委員会の中で、検討させていただきたい。

【委員】アウトプットとして、事例集があげられているが、物流と環境をテーマとした、具体的な対応策まで参照できる、関係者のパイプになるようなものにしていきたい。

【委員】物流の環境活動について、各社のノウハウを相互に提供し、委員メンバーの強い連携に基づいた活動を期待している。

【委員】問題抽出アンケートの結果から、サプライチェーンに関わる企業間の取引条件、物流サービスが問題点として大きくフォーカスされている。これは業界の問題でもあるが、荷主企業の立場としても、当委員会でも物流企業との建設的な意見交換を行い、問題解決につなげていきたい。

【委員】共同配送も各メンバーの課題として多くあげられている。共同配送を推進するため、現状の課題の洗出しや条件整備を行い、当委員会から具体的な事業を立ち上げてみたい。

【委員】物流企業の立場として、モーダルシフトを推進しているが、遅々として進まない状況にある。ガイドライン等は是非作成したいが、つくったものを各企業に啓発、普及するという視点も重要ではないか。

以上のような意見交換が行われた後、山本委員長より、具体的な委員会活動内容等について検討を行うにあたり、当委員会の活動を通して、各メンバーが期待するアウトプット等を具体的に把握するため、アンケート調査を行うことが全会一致で了承された。

また、具体的な内容については、正副委員長ミーティングにおける検討のうえ、アンケートを行い、委員メンバー各位には、1週間程度で回答いただくことが併せて確認された。

2) その他

今後のスケジュールについて

第2回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年2月17日(水) 10:00～12:00

会場：芝パークホテル 別館2F アイビー

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上